

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	薬業科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	医薬品試験法		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時間	後期	教室名	
担 当 教 員	川原 一仁	実務経験と その関連資格	医薬品製造管理者 薬剤師			
《授業科目における学習内容》						
医薬品・医薬部外品・化粧品等の業界で活躍されることになる学生の皆さんは、厚生労働省が定めた多数の剤型を覚えておかなければなりません。そこで、この科目ではそれ江ぞれの剤型の定義や、そのざいけいとすることによって効果がどのように変化するか、また、その剤型で名kればならない理由などについて、解析していきますので、しっかりと聞き、理解してください。						
《成績評価の方法と基準》						
期末試験 70点 出席点 20点 平常点 10点(小tゲスト)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
第7版 日本薬局方要説 広川書店 (ISBN978-4-567-01127-3 C3047) 並びにオリジナルプリント						
《授業外における学習方法》						
講義で解説したところについて、テキスト、ノート、配布資料などをしっかりと見直し、自分なりに説明できるように努力しましょう。						
《履修に当たっての留意点》						
初めて耳にするような専門用語が出てきますが、皆さんは将来、そのような業界で専門家として働くので、しっかりと覚えてください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	この科目を学ぶ意図・目的は何かを中心に理解することができ、この講義に積極的に取り組めるようになることができる、	テキスト	テキスト117ページから121ページに目を通しておくこと	
	各コマに おける 授業予定	全ての医薬品は原材料から中間製品、最終製品に至るまでの全段階で品質管理を行い、合格したものだけが市場にでる。その品質管理の試験方法はきほんてきに日本薬局方の一般試験法で定められている				
第2回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	無機不純物お限度試験の中のアンモニウム試験法及び塩化物試験法と硫酸塩試験法について理解できるようになる	テキスト	次回講義内容の予習をしておく	
	各コマに おける 授業予定	アンモニウム試験法、塩化物試験法、硫酸塩試験法についての解説				
第3回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	重金属試験法とヒ素試験法について理解できる	テキスト	次回講義内容の予習をしておく	
	各コマに おける 授業予定	鉄試験法について解説				
第4回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	硫酸呈色物試験法と鉍油試験法、メタノール試験法について理解できる	テキスト	次回講義内容の予習をしておく	
	各コマに おける 授業予定	硫酸呈色物試験法、鉍油試験法、メタノール試験法について解説する				
第5回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	アルコール数測定法、酸素フラスコ燃焼法について理解	テキスト	次回講義内容の予習をしておく	
	各コマに おける 授業予定	アルコール数測定法、酸素フラスコ燃焼法について解説する				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	酸素フラスコ燃焼法について理解できる	テキスト	次回講義内容の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	酸素フラスコ燃焼法について解説する		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	確認小テストにより理解度が分かる	テキスト	次回講義内容の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	これまでの復習を行う		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	窒素定量法(セミクロケルダール法)について理解できる	テキスト	次回講義内容の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	窒素定量法(セミクロケルダール法)について解説する		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	油脂試験法について理解できる	テキスト	次回講義内容の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	油脂試験法の酸価、けん化価、エステル価、水産基加、不けん価、ヨウ素価について解説する		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	炎色反応について理解できる	テキスト	次回講義内容の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	デモンストレーションにより炎色反応を解説する		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	トーレンス反応、ジアゾカップリング反応、ギブス反応、塩化物反応について理解できる	テキスト	次回講義内容の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	トーレンス反応、ジアゾカップリング反応、ギブス反応、塩化物反応について解説する、		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	トーレンス反応、ジアゾカップリング反応、ギブス反応、塩化物反応について理解できる	テキスト	次回講義内容の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	沸点測定法及び蒸留試験法、沸点測定法について解説する		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	マルキス反応、ムレキシド反応、タレイオキシシン反応、について理解できる	テキスト	次回講義内容の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	マルキス反応、ムレキシド反応、タレイオキシシン反応、について解説する		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	ドラーゲンドルフ試液による確認、ニンヒドリン試液による確認、硫酸銅試液による確認、エーエルエイツヒ反応について理解できる	テキスト	今までの講義についてまとめノートを作成しておく
		各コマにおける授業予定	ドラーゲンドルフ試液による確認、ニンヒドリン試液による確認、硫酸銅試液による確認、エーエルエイツヒ反応について解説する、		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	最終回としての振り返り	テキスト	今までの講義についてまとめノートを作成しておく
		各コマにおける授業予定	第1回から14回の内容の振り返りをする		